

川崎市文化協会会長賞作品

「新聞記者という夢」

栗木台小学校 6年 熊谷 早希子

保育士、医者、パティシエ……。どれも興味があります。でも、私が一番なりたいのは、新聞記者です。新聞のリポーターをやり始めたことが、きっかけでした。

四年生のころ、リポーターを募集している記事を見つけました。なんとなく、「やってみようかな」という気持ちで応募しました。自分でリポートを書いて送る、というのがリポーターの役目でした。だから、三回くらいリポートを書き、送りました。一回目のリポートが新聞にのった時は、家族全員で喜びました。そして、二回目、三回目とリポートを書いていくうち、いつの間にか「新聞記者になりたい」と思い始めました。三回目がのって何日か経った時、一本の電話がかかってきました。母が受話機を取り、話していました。途中で、母に「電話代わって」と言われました。代わってみると、新聞社から、「いっしょに取材に行きませんか」と言われました。即答で、「はい!」と答えていました。

取材当日。待ち合わせ場所に行ってみると、小柄な女の人が立っていました。手に新聞を持っていたので、「あの人だ!」とすぐに分かりました。現場に行くと、記者は笑顔でスラスラと質問しています。なのに、私は緊張していたから質問が出来ませんでした。記者は質問をしながら、途中で写真もとっていました。とても手際が良く、感心しました。

何日か経って、メールで「記者にとって、大切だと思うことは何だと思いますか?」と質問をしたことがあります。するとすぐに返事が返って来て「いろいろな事に興味を持つことが大切かな」と書いてありました。また、「本を読むのが好きでした」とも書いてありました。だから私は、これからも本を読んでいきたいと思います。そして、小説や物語だけでなく、ちょっと難しいような本にも挑戦してみたいと思います。

人に、正確に出来事を伝える事は、簡単な事ではありません。そして、新聞記者にとって、とても重要であると思います。だから、日常の中でも、物事を正確に伝えられるように練習していきたいと思います。

新聞記者になったら、インターネットで情報を得る事が増えて来た今でも、みんなが読んでくれるような記事を書きたいと思います。

取材をして、記者が笑顔で質問することで、相手も答えやすくなると分かりました。

新聞の良い所は、テレビとは違い、紙で残るため、残しておけばいつでも見返すことが出来るというところです。

新聞は、一枚一枚が歴史だと思います。その日起こった主な事をまとめてあって、いつでも見返す事の出来る、いわば日記です。これからは、日常の中で人と話していろんな人の考え方を知っておきたいと思います。いろんな出来事に興味を持つようにします。

また、2020年には東京オリンピックが開催されます。これを機会に、外国人とも交流をしたいと思います。

川崎という地域の良さを伝え、音楽とスポーツと読書のまちであることを紹介したいです。川崎で生まれ、育った選手を紹介したり、人生を追いかけたりすることも夢です。自分達の仲間として伝え、みんなで、仲間と応援できる記事を書きたいです。そして、選手の思いや夢、感動の言葉も、語ろく集コーナーとして、のせられたらいいなと思います。

夢に向かって努力を重ねることは、私の生きがいでもあります。

いつか、私の記事が一面にのる日を目標に、一日一日を大切にしていきたいと思います。